



パリとパリ



逢見事務局長の12

ココ
だけの 新

ILLOアジア太平洋地域会議で 南国インドネシアのパリ島へ

新しい年がスタートしました。

昨年末、バリ (Bali) とパリ (Paris) に立て続けに出張してきました。バリとパリ、名前は似ています。日本語もそうですが、中国語で、バリは巴厘、パリは巴黎 (黎明期という時の「黎」です) と書きます。なぜか後の字の方が違います。バリはインドネシアのジャワ島の東にある島です。赤道より少し南にあって一年中、気温が30度程度の熱帯地域です。暑いと思っただけですが、雨期のため毎日雨が降っていて、それほど暑くはありませんでした。バリでは、4年に1度のILLOアジア太平洋地域会議が開催されました。会議で私は副議長に選ばれ、4日間の日程のうち半日間議長を務め、閉会式での締めくくりに演説もしました。英語で。

OECD・TUACは 北緯48度のフランス・パリにて

一日置いて、次に向かったのはパリです。言わずもがなですが、フランスの首都で北緯48度のところにあります。北緯48度というと、日本では最北端の稚内より、さらに北のサハリンの中央部にあたります。緯度の割に気候は温暖ですが、この時期は昼の時間が短いです。朝9時でも車はライトをつけて走っています。パリにはOECD (経済協力開発機構) の本部があります。先進国クラブと呼ばれていますが、先進国が集まって、主に経済や社会の政策課題について分析し、討議し、提言をまとめたりする国際機関です。ここには労働組合諮問委員会 (TUAC) というのがあって、労働組合の立場から意見を述べたりします。ここで、私は「完全雇用と平等に向けたマクロ経済政策」というテーマの議論のスターターとして、日本の状況について発言してきました。英語で。海外出張のたびに、もつと英語が話せたらいいなあと思います。なかなか上達しません。そんなわけで、今回の出張は、ど



ちらも会議場とホテルの往復でした。こうなると楽しみはホテルでの朝食です。バリのホテルの朝食は、いろんなものがありました。お粥、炒飯、焼きそば、ラーメンなどがあり、しかも毎日、その中身が違います。私は、お粥にはまって毎日食べていました。一方、パリの朝食は定番です。フランスパンにジャムやバターが付いて、あとはコーヒークミルクの入ったカフェオレです。それ以外には、薄く切ったチーズが付くくらいです。まったく同じメニューですが、それはそれで結構楽しめます。やはり本場のフランスパンはおいしいです。バリとパリ、名前は似ていますが、気候も文化も食事も違うということを感じた2週間でした。

世の中は「澄む」と「濁る」で大違い
バリは南国、パリは北国
フク(福)に徳あり、フケに毒あり
ツツキ(続き)は読みたい、
ズツキ(頭突き)は痛い
フタはするもの、フダは取るもの
タンゴは聴くもの、ダンゴは食うもの

